

## 第4章 鹿島線

### 第1節 6月21日(土): 鹿島神宮～佐原 晴れ

鹿島神宮(10:07)～延方(11:55)～潮来(13:40)～十二橋(14:55)～香取(立ち寄らず)～佐原(17:15)

2003年6月21日(土)、鹿島神宮駅から佐原駅までの17.8Kmに挑戦。この日も4時過ぎに目が覚め、南林間6時5分の電車(成田回りと同じ)で新宿に向う。千葉駅8時19分の電車で佐原駅(8時37分到着)に行き、そこで同一ホームの先頭の方に止まっている電車に乗り換え、8時41分発の電車で終着駅鹿島神宮に向う。本来ならば、成田回りと鹿島線の分岐点駅である香取駅から鹿島神宮行きが発車となるべきところであるが、利根川の陸橋が香取駅近郊にないこともあり、佐原駅となっていると推察できる。香取駅から鹿島神宮にかけて鉄道は高架されていた。本日挑戦する鉄道沿線には、利根川、霞ヶ浦、北浦が地形的に関与し、歩くのには戦略的要素を感じた。それ故、距離の割には時間を要したが、興味を注いでくれた。地図で見る限り、十二橋近郊の橋が非常に気に入り、もし橋がないようであれば、この駅のクリアは断念せざるを得ないと考えた。しかし、気になる橋が運良くあり、本日のコースへの挑戦が確立された。10時7分に到着した。昨年のワールドカップを中心に利用されたカシマサッカースタジアム駅が1駅先にあった。



※鹿島神宮駅、鹿島神宮

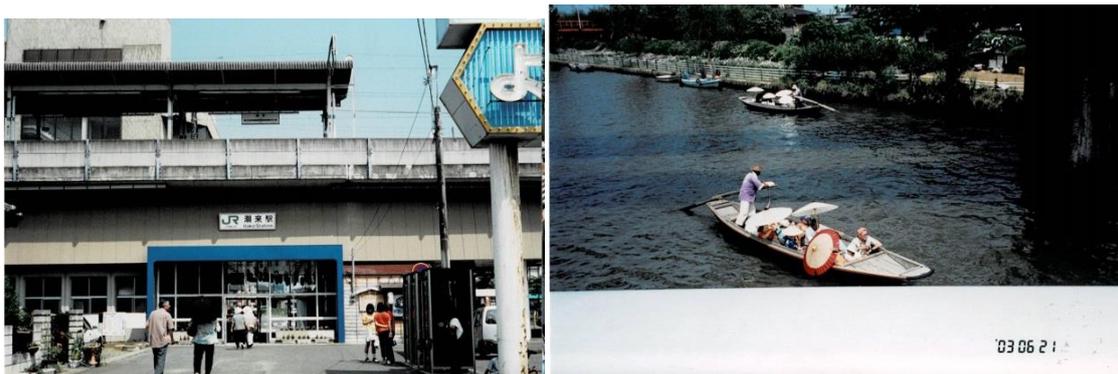
第1歩は、鹿島神宮駅から東の方向にある、徒歩10分の位置にある鹿島神宮を目指す。この神宮も香取神宮と甲乙つけられない位、立派な神宮であった。特に、スギ、ヒノキ、スタジイ、タブ、サカキ、モミ等からなる300m位つらなる参道が素晴らしかった。今日は天気にも恵まれ、夏を思わせる日差しだったので、この参道に入るとひんやりとし、快適な気分を味わうことができた。神鹿小屋を参道から見掛けることができた。

鹿島神宮は、看板での説明によると「国家鎮護の神」をお祭りしているとのことである。それで、日本最古最大の「国宝直刀」の展示した施設があった。看板によると、刀の製作時代は奈良時代のもので、全長3mのものも展示（120点）しているとのことであった。



※延方駅、延方駅への路

30分位、鹿島神宮を散策後、北浦の橋を渡り、延方駅を目指す。この橋を渡ると潮来市であった。猫親子が道路を横断するアットホーム的光景に出くわす。延方駅には11時55分に着く。ここでも、貨物列車がこの駅で離合する珍しい光景に出くわす。朝窓から見た限り、潮来から延方にかけて小山があり、歩くのに骨が折れると思ったが、意外に障害物がなくすいすいと進むことができた。潮来駅への途中、「ラーメン屋壺番亭」で12時半から30分程度休息する。報知によると、清原が広島線の走塁で足をいため、本日は欠場の旨の記事が載っていた。その場合、ペタジーニが代わりに出場する可能性の記事も書かれていた。



※潮来駅、潮来駅界限



※潮来

13 時過ぎにこの店を出、潮音橋に差し掛かった時、水郷地帯にしか見られない、前川に浮かぶ伝馬船を見掛ける。思わず感動して写真撮影する。舟には 7~8 名乗っていた。本日は日差しがきついので日傘をさしての遊覧であった。潮来駅には 13 時 40 分到着する。常陸利根川沿いに出ると、あやめ園、遊覧船、伝馬船の船着場があり、沢山の観光客で賑わっていた。陣笠を被った、小船の船頭と思われる女性陣が印象的だった。1Km 位この光景が続く道をこの字型に迂回して、常陸利根川の橋（潮来大橋）を渡り、十二橋駅に向う。この橋を渡ると佐原市であった。佐原側は潮来側に比べ正反対で、水郷地帯を象徴する水田が続いていた。前回に比べ、稲は青々と成長していた。佐原側にも加藤州十二橋があり、こちらの方でも舟を楽しめる船着き場があった。十二橋には 14 時 55 分到着する。駅前には消防署の出張所とラーメン屋がある限りで、寂しい感じのする駅だった。



※十二橋駅、水郷大橋（香取駅への路）

20m 位の川幅を渡り利根川の土手に出る。ペットボトルが空となり、喉がからから

で、6 Km 位続く土手を歩き、大橋を渡りやつのことで佐原市街に入る。佐原市内に入るや否や自動販売機を探し水分を補給する。生き返った気分になった。佐原駅には17時15分到着する。17時55分の電車で家路に向う。自宅には21時25分過ぎに到着する。今日は、充実した一日であったが、久保の系統が失敗し、阪神に大敗してしまった。せっかく鈴木が同点ホームランを打ち、4対4になったのに。非常に口惜しい思いがした。今から考えると、この試合の負けが巨人の優勝の夢を100%打ち砕いたと思える。



※香取駅、佐原駅